

現地到着・研修写真

今回、塵芥収集車2台をミクロネシア連邦のチューク州へ寄贈し、現地で短期研修が行われました。車両は日本の自治体から無償で頂き、その整備・輸送にかかる費用は、日本政府の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」(政府開発援助の一つ)による支援を受け、日本人々の善意に支えられた国際協力となっています。

平成24年5月4日にミクロネシア連邦チューク州の港へ到着後、14日に輸入通関を終えた後、日本からの技術者を派遣して短期研修を行いました。州政府からは、車両を廃棄物処理を管理する環境保護局の立会の下、実際の収集や車両管理を担当する交通・公共事業局のスタッフが参加しました。

1	<p>チューク港の保税倉庫から引き出されたばかりの塵芥収集車2台。</p>	
2	<p>チューク州環境保護局(Environmental Protection Agency, Chuuk State)のステッカーが貼付された。</p> <p>左より、EPA局長イスマエル・マイケル氏、ドライバーのフライドゥン・エウエン氏、青年海外協力隊員・前川健一氏(八王子市職員)。</p>	

<p>3 指導員の手元を注視しながら、機械の作動状況を見守る研修員達。</p> <p>中央:指導員・金子敏夫氏(富士車輛株式会社)</p>	
<p>4 上部をのぞきこむための梯子が無い ため、小型トラックを寄せてその荷台の上から説明。</p>	
<p>5 回収から戻ったドライバー達と共に、メカニックも車両洗浄に余念がない。</p>	

Photo 2

<p>6 研修に先立ち、チューク州政府の担当局が所有しているメンテナンス用機材や工具類を確認した。日本の部品サイズに合うツールが限られていたため、今後揃えてもらえるよう助言。</p>	
<p>7 従来使われてきたパッカー車。2004 年から利用しているが、日本で7~8年程使われた後に届いたものと思われる。タイヤのホイールロードが破損し、部品取寄せ中とのこと。</p>	
<p>8 ドライバー向け講習の後、回収の実地研修に出かける。2週間ぶりという収集では、集積所周辺にあふれたごみを集めることから始まった。</p> <p>4 トン車は 3 箇所ではほぼ一杯となった。</p>	

<p>9</p>	<p>集積所は幹線道路沿いに多いが、向きによってはパッカー車を停めると、車体が道路の半分をふさぐ形になる。</p>	
<p>10</p>	<p>2トン車での回収を開始。集積量が多いため、2箇所ではほぼ満杯となった。1箇所あたり、約15分の作業。</p>	
<p>11</p>	<p>集積所のトラッシュビンは、パッカー車後部に直接ごみを掻きこめるような高さに作られている。</p>	

Photo 4

<p>12</p>	<p>チューク州の道路事情が悪いのは国内でも有名とのこと。幹線道路にも、大きな水溜りが頻繁にあるため、車両はどこでも安全運転。</p>	
<p>13</p>	<p>最終処分場の目の前に一般住宅があり、子ども達が遊んだり、リサイクルできるごみを分別したりしているため、安全確認には一層の注意が必要である。</p>	
<p>14</p>	<p>研修の全行程を終え、ドライバー2名、メカニック3名には、修了証書を手渡した。</p> <p>右より、EPA廃棄物管理課長ジャック・シャム氏、後列はドライバー・補助作業員・メカニック達。前列中央:JOCV 前川氏、左端:金子氏</p>	

Photo 5